

サクラの剪定法



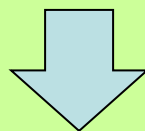
剪定の効果・目的

- 枝を更新し樹体の若返りを図るとともに、花芽の数を多くする(古い枝を切り、新しい枝を出す)。
- 病害虫の被害枝を除去し、その拡大を防ぐ。
- 通風・採光をよくして病害虫の発生を抑え、花芽分化を促進する。
- 樹形や開花期の景観を保つ。
- 歩行者の安全を保つ。

剪定の適期

早春

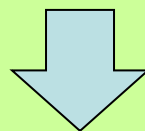
- 細胞が休眠から覚めて生理活性が高い。
- 樹体内蓄積エネルギーが多い。
- 病原菌や害虫がまだ不活発。



- 強剪定が可能。

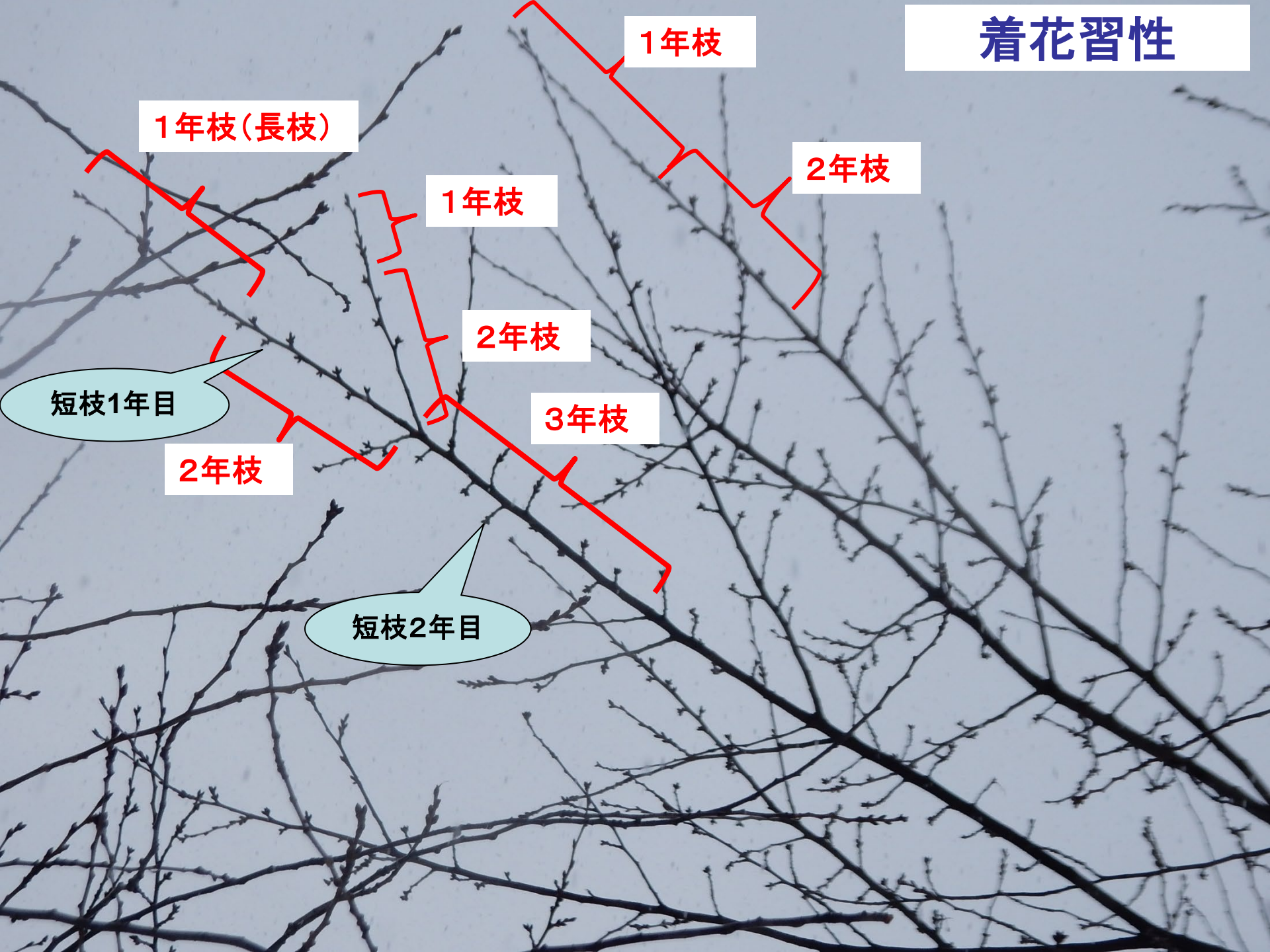
夏の剪定

- 生長が盛んな時期は樹体内エネルギーが少ないため、**強度の剪定**は胴枯れや材質腐朽菌の侵入を招く。
- 急激な枝葉減少を補うために胴吹きやヒコバエを出す
が、逆に蓄積エネルギーを使い果たし、**病害虫に対する抵抗力が著しく弱まる**。



- 必要最小限の剪定

着花習性



1年枝

1年枝(長枝)

2年枝

1年枝

2年枝

短枝1年目

3年枝

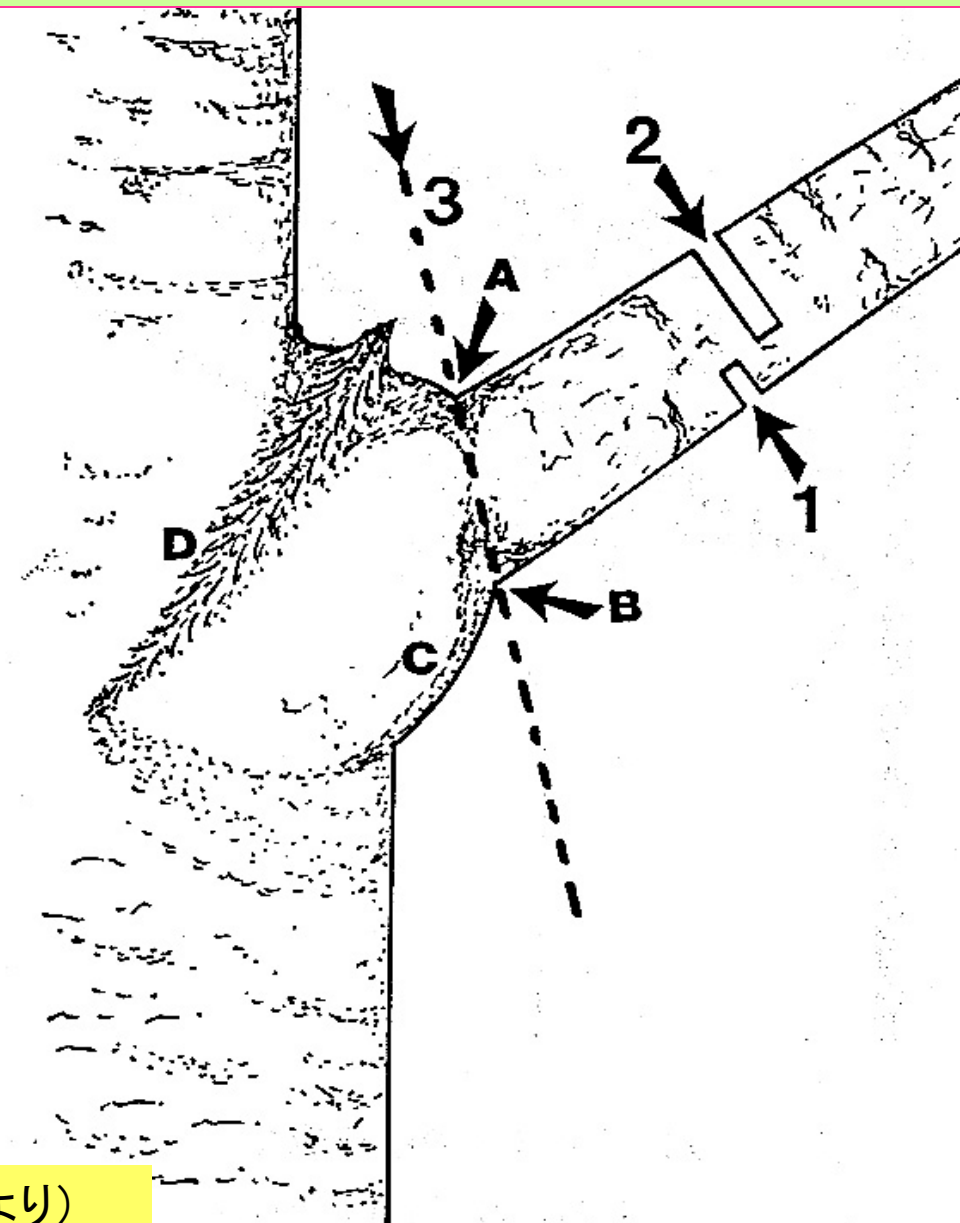
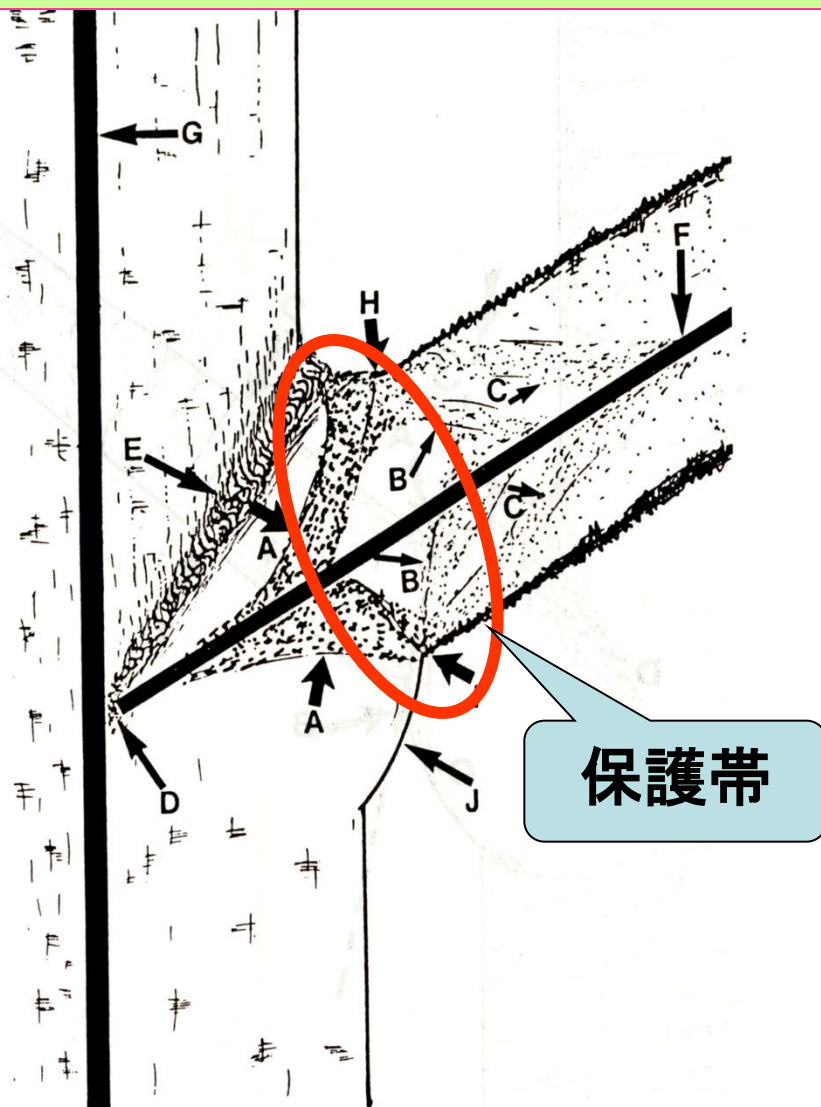
2年枝

短枝2年目

剪定すべき枝

- 1 枯れ枝
- 2 病虫害の被害枝
- 3 混み合う枝等(間引き)
- 4 老化した枝
- 5 危険な枝等(腐朽等)
- 6 徒長枝

剪定位置、切り方（枝）

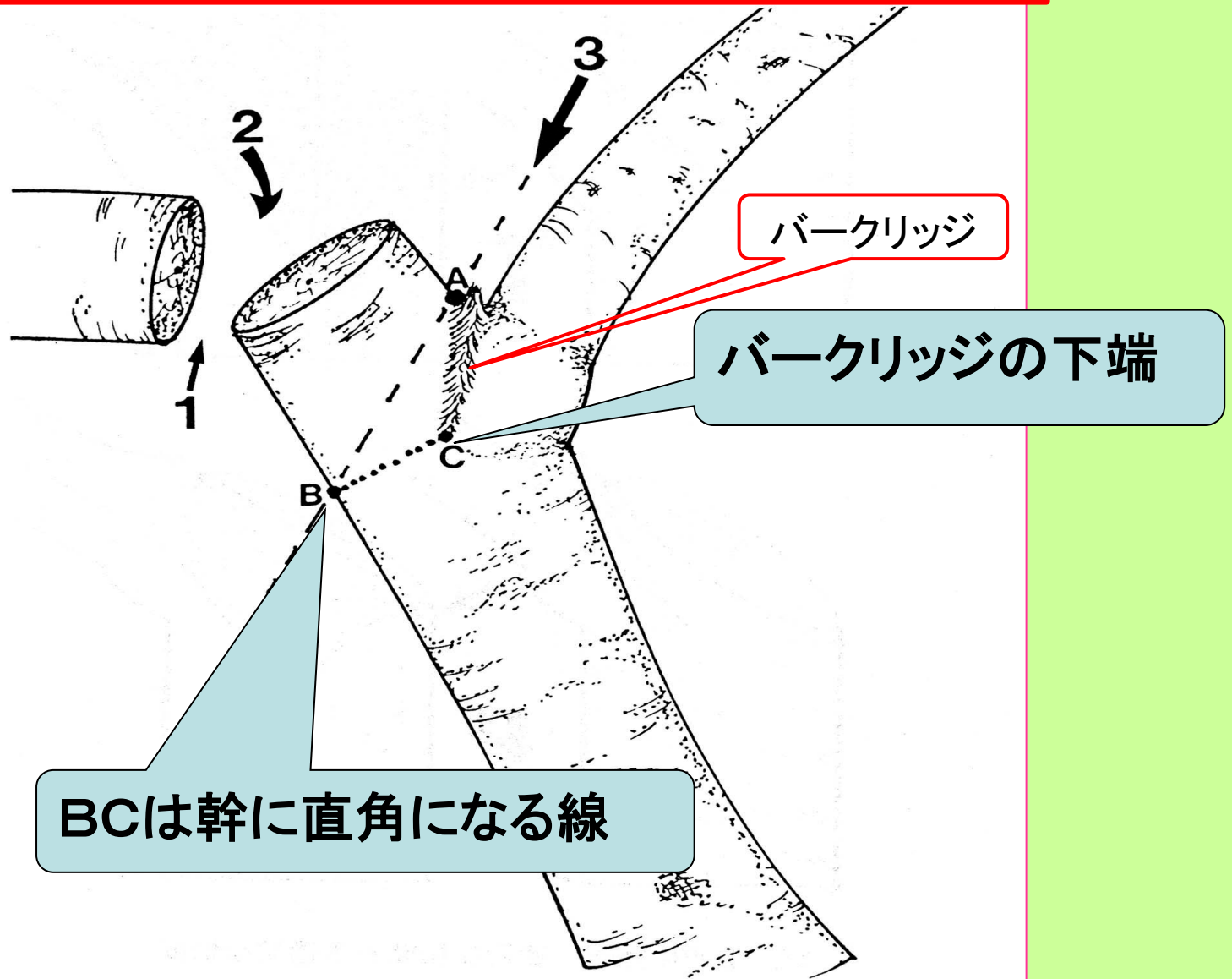


(現代の樹木医学要約版:「日本樹木医会」より)

剪定痕(カルス)

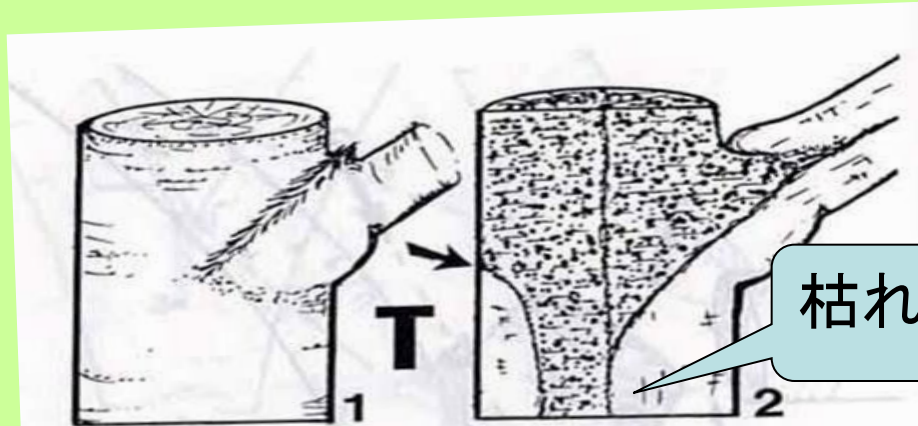
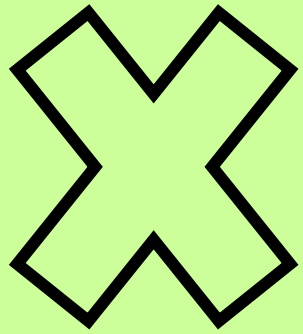


剪定位置、切り方(幹、枝の切り返し)

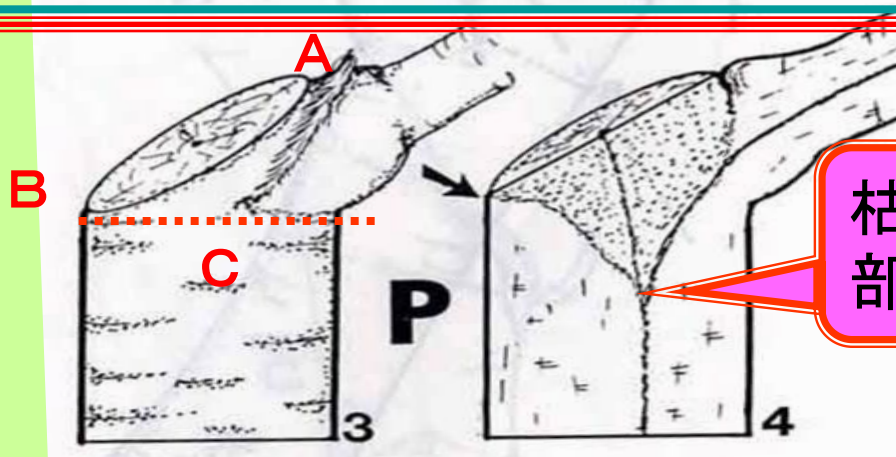
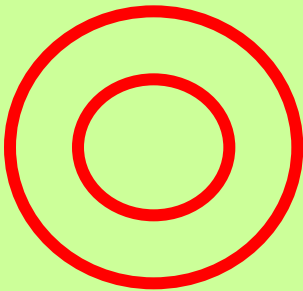


(現代の樹木医学要約版「日本樹木医会」より)

主幹の切除(幹、枝の切り返し、芯止め)方法

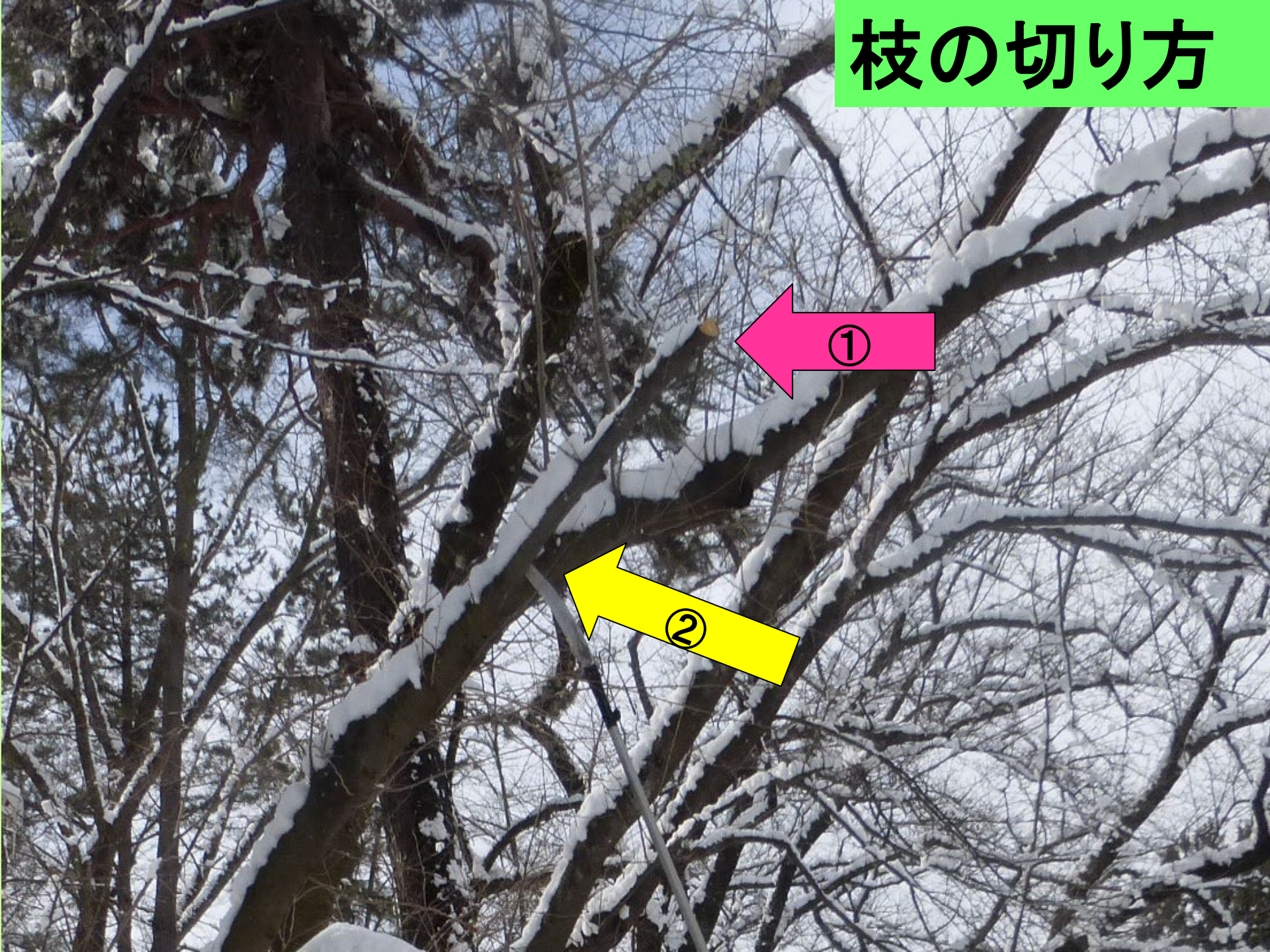


枯れ込みが深く入る



枯れ込みが浅い
部分で止まる

枝の切り方



枯れ枝

枯れ枝の芽

生きている枝の芽



病虫害の被害枝

サクラてんぐ巣病



こぶ病(増生病)



ウメシロカイガラムシ



幼果菌核病



コスカシバのせん入痕

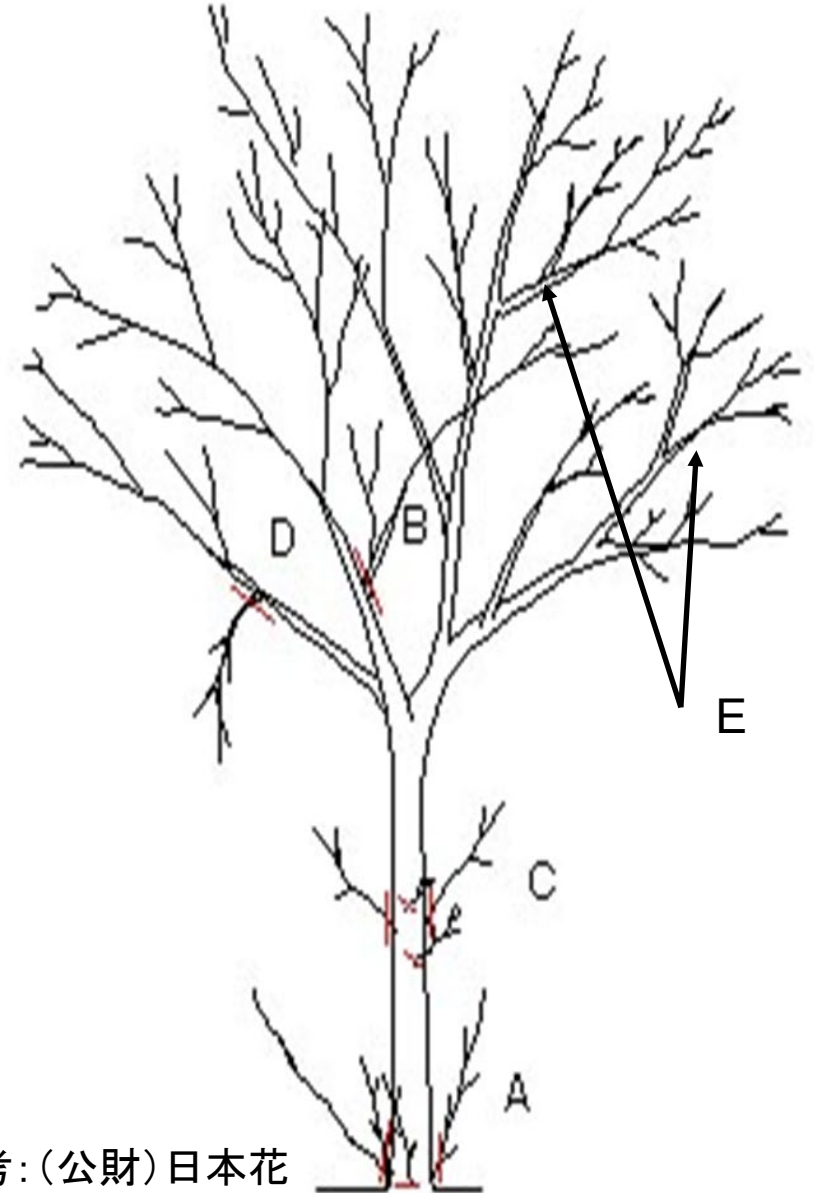


アメリカシロヒトリ初期被害



混み合う枝等の間引き

- A ひこばえ(やご)
- B ふところ枝、からみ枝
交差枝
- C 胴吹き枝
- D 逆さ枝
- E 平行枝



参考:(公財)日本花
の会ホームページ

ひこばえ



逆さ枝



ふところ枝(弱い枝)



胴ぶき枝



平行枝



老化した枝

(枝が垂れ下がり、花芽
が枝先にしかない)

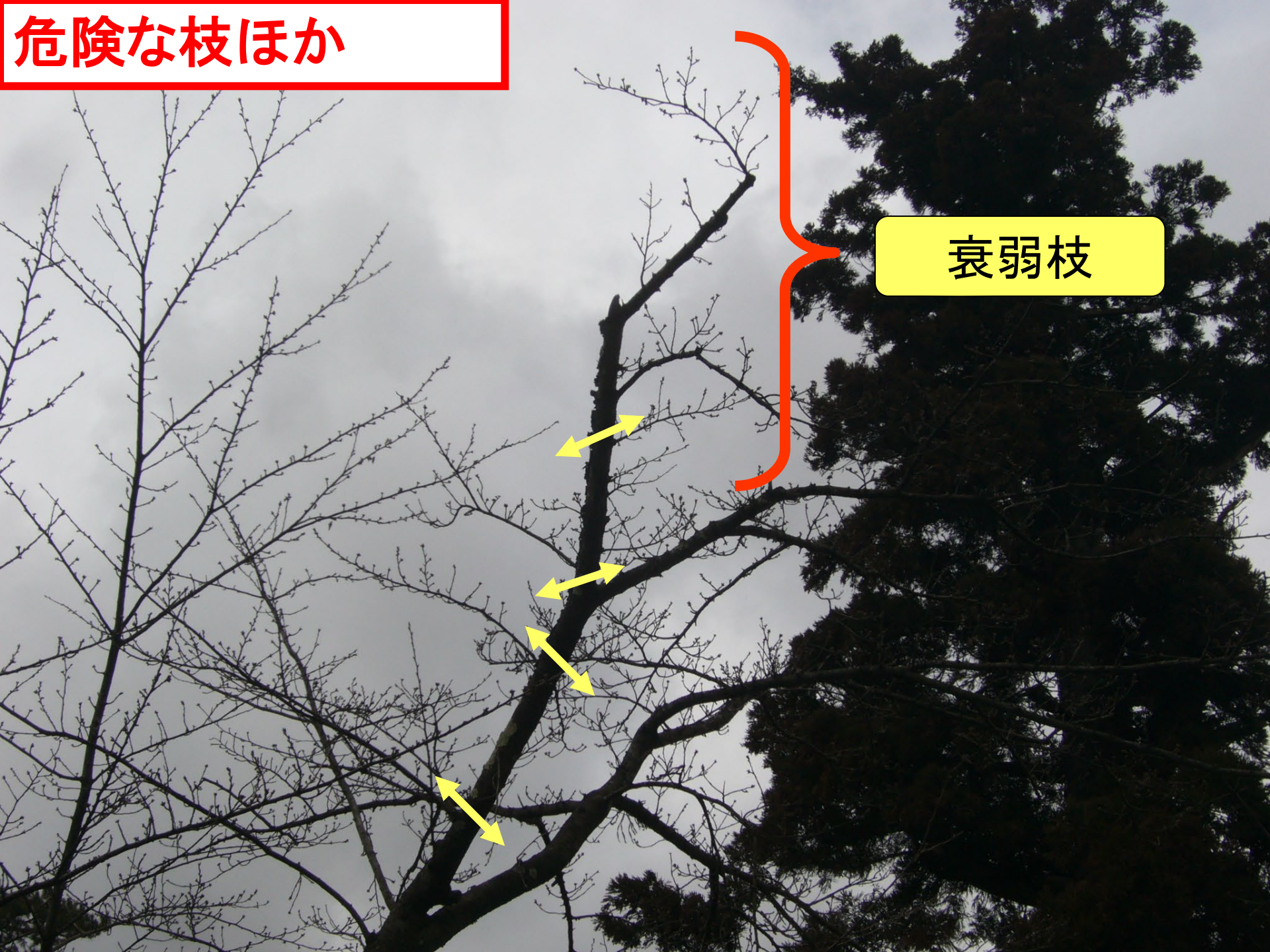


A photograph of a flowering branch, likely a cherry blossom branch, with many small buds. The branch is dark and has several smaller branches extending from it. The background is a light, overcast sky. A light blue text box with a pink border is overlaid on the left side of the image, containing Japanese text.

若くて元気のある枝

(枝がまっすぐ伸び、
花芽が多い)

危険な枝ほか



衰弱枝

カワウソタケによる材質腐朽病



剪定残し



剪定残し



徒長枝



不定根による幹の再生



徒長枝(不定芽)



ソメイヨシノの管理暦

(弘前公園)

